

**E**xposed to **C**hange in **O**nagawa

女川町と共に変革の本質を学ぶ脱境界の旅

プログラム紹介資料

2026年3月6日

 HUMAN VALUE

# プログラム開催にあたってのご挨拶

本企画を立ち上げた背景には、地域を旅する大学として知られる「さとのぼ大学」で学ぶ長男が、宮城県女川町での1年間の暮らしを通じて大きく自己変容していく姿を目の当たりにした経験があります。

日々、地域の方々と触れ合いながら変わっていく彼の姿を見て、女川という町には、人が変わる「変容のエコシステム」が存在しているのではないかと感じるようになりました。

その後、かつて読んだハーバード・ビジネス・レビューに掲載された女川の変容に関する論文を改めて読み直し、さらに長男の滞在を1年間支えてくださったNPO法人アスヘノキボウの取り組みに触れる中で、女川にはヒューマンバリューが携わる個人や組織の変革にも通じる知見があるのではないかと確信し、本プログラムを立ち上げました。

昨年からはスタートしたこのプログラムは、震災後、官・民・地域が連携し、日本で最も早く復興を遂げた女川と「共に」変革の本質を探究する数ヶ月間の取り組みです。

「被災地」にもつ仮説は保留し、そこで生きてきた人々と共に、自らの向き合う「変革」の本質を探究します。

ここでは、本やメディアからの情報ではなく、その地に自らの身を置き、没入（Immersion）し、その文脈に触れ（Exposed）ることを重視します。

一人の人間として、女川の過去・現在・未来に自分を重ね、「自分には何ができるのか、いま何をしているのか、これからどう生きていくのか」を、仲間と共に深く考え・対話しながら歩み続けます。

自身と世界との境界線を引き直し続け、深い学びと新たな洞察を生み出す旅を、ご一緒するのを楽しみにしています。



ヒューマンバリュー 代表取締役副社長  
長曾 崇

# プログラムのコンセプト

## 「変わる」ことの本質に触れる脱境界の体験

2011年3月11日に起きた東日本大震災からの復興を通じて、地域の人々と官民が共創し続けてきた女川町から始まる数ヶ月の探究を通し、都市部の大手企業でマネジメントを担う方々に向けて、「変わる」ことの本質に触れる脱境界の体験を提供します。

## 未来につながる今を拓くことができるという希望

先が見えず、正解のない時代の中で、変化の必要性は理解していても、現実には一歩を踏み出せない—多くのリーダーがそんな葛藤を抱えています。そのようなリーダーの皆さんが、今自分たちがいる世界の境界を越え、女川へ足を運び、そこに住まう人々の実践知と再生のストーリーに触れます。さらに女川の次なる未来に向けた課題や希望について共に考えることで、自らの世界において未来につながる今を拓くことができるという希望を得ます。

## 未来に向けて“本当に変わる”ための動的な学びの旅

現地での出会い、対話、内省を通して、自身の思考の枠を越え、「変革の当事者」としての姿勢と問いを持ち帰り、日々の実践に生かし、磨き続けていく。それを共に旅する仲間と持ち寄り、数ヶ月かけて磨き続ける中で、変革の本質を学びます。女川での体験は、未来に向けて“本当に変わる”ための動的な学びの旅の出発点となります。

## プログラムの特徴

### ■ 変革のリアリティの体感と、共創の実践知からの学び

- 町全体が「変革のストーリー」を体現し、住民・行政・企業の垣根を越えた実践の知恵が生み出されている

### ■ 非日常への没入がもたらす深い内省

- 日常のビジネス思考・リズムから切りなされた環境に身を置き、正解探しではなく没入することで、自分自身の問いに向き合うことができる

### ■ 女川での体験を自分の日々の仕事の中に生かすプロセス・デザイン

- 参加者同士の関係・思考・行動の質を高めながら、仲間と共に自身の在り方や仕事に向き合い続ける

### ■ 心理的安全性と揺らぎを支える伴走とプロセス・ガーデニング

- 意識的に無意識的にも不安や恐れを感じやすい状態において、ヒューマンバリューメンバーが人の揺らぎや変容を支える場を作り、仲間として伴走しながら支え続ける

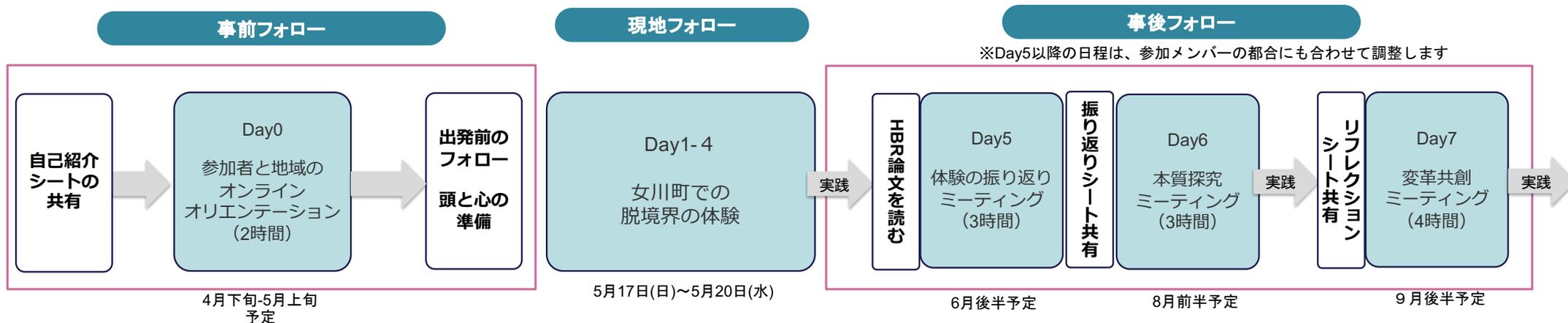


長曾 崇



保坂 光子

私たちが  
ファシリテーター/  
プロセス・ガーデナーとして  
皆さんの探究を支えます



体験から得られる価値を参加者・地域・組織にとってよりよいものにするため、  
「事前フォロー」と「事後フォロー」を含めた、  
現地での体験だけではない総合的なプロセスをデザインします

※女川町での体験内容は、現地の状況や参加者の皆さんとの相談によって柔軟に変更する可能性があります

オンライン 4月下旬-5月上旬	女川町 5月17日(日)~5月20日(水)				オンラインorハイブリッド(1ヶ月~3ヶ月後)		
					6月後半女帝 ※Day5以降の日程は、参加メンバーの都合にも合わせて調整します	8月前半予定	9月後半予定
Day 0 (2時間)	Day 1 女川への グラウンディング	Day 2 女川の過去と今	Day 3 女川の今と未来	Day 4 総合的振り返り	Day5 (3時間)	Day 6 (3時間)	Day 7 (4時間)
<ul style="list-style-type: none"> <li>「女川とは何か」、「脱境界とは何か」を掘り下げるイントロダクション</li> <li>NPO法人アスヘノキボウ代表後藤さんによるオリエンテーションとストーリーテリング(町の変遷、共創の歴史)</li> <li>参加者による参加目的・問いの言語化※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仙台駅に集合~チャーターバスで石巻市震災遺構大川小学校へ</li> <li>大川小学校で佐藤敏郎さんのガイド&amp;対話</li> <li>バスで女川町へ移動・交流ランチ</li> <li>青山貴博さんより女川のストーリー共有~振り返りダイアログ</li> <li>宿泊施設へ移動</li> <li>夕食/交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合・朝会</li> <li>アスヘノキボウのストーリー共有~ダイアログ</li> <li>女川の過去と今について現地の方のガイドで女川まち歩き</li> <li>ランチ休憩</li> <li>女川を復興してきた人々との対話</li> <li>2日目の振り返り</li> <li>夕食/交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合・朝会</li> <li>高政の工場見学~社長との対話</li> <li>ランチ休憩</li> <li>女川のいまと未来を生きてきた・生きている若者達との対話</li> <li>3日目の振り返り</li> <li>夕食/交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテルチェックアウト、朝会</li> <li>個人の振り返り</li> <li>総合的な振り返り/DAY5に向けた案内</li> <li>女川の街を惜しむ</li> <li>15:00発のチャーターバスにて女川の街を出発し、仙台へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「女川での体験」を重ね合い、振り返りを言語化する</li> <li>体験を経て得られた気づきや発見の探究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「女川での体験」の本質的な意味や価値の振り返りと探究</li> <li>「女川での体験が自分と自組織にもたらす変容可能性」の探究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女川での体験や日々の実践から得られた学びや発見の共有(シェアリング)</li> <li>今後の実践プランの検討と踏み出しの共創</li> </ul>
参加者と地域のオリエンテーション	女川町での脱境界の体験				体験の振り返りミーティング	本質探究ミーティング	変革共創ミーティング

※事前ワークとしての自己紹介シートの共有

※チーム学習の状態把握  
Ocapi

※HBRの記事を読む

※事前にフォローシートを作成・共有

※チーム学習の状態把握  
※効果測定



©HUMAN VALUE Inc. all rights reserved.

## (参考) ECO2025に協力・参加してくれた方々

※ECO2026ではさらに参加・協力くださる方の輪が広がります

### 協力メンバー（一部）



大川伝承の会 共同代表  
佐藤 敏郎さんと  
3.11語り部ネットワークの皆さん



女川町長  
須田 善明さん



女川町 地域イノベーション推進課 課長  
青山 貴博さん



株式会社高政 代表取締役社長  
高橋 正樹さん



女川みらい創造株式会社 代表取締役社長  
阿部 喜英さん



女川町役場  
佐藤 柚希さん



NPO法人 アスヘノキボウ  
小松 洋介さん



NPO法人 アスヘノキボウ  
代表理事 後藤 大輝さん



NPO法人 アスヘノキボウ  
丹野 真人さん



NPO法人 アスヘノキボウ  
武井 友佑人さん

協力組織：アスヘノキボウ、女川町役場、株式会社高政、震災遺構大川小学校/伝承館、ほか

### 参加メンバー

株式会社 アシスト、安全自動車 株式会社、センコーグループホールディングス 株式会社、株式会社 博報堂DYトータルサポート、福島トヨペット 株式会社、NPO法人アスヘノキボウ、株式会社ヒューマンバリュー （7社/13名）

## ■ 共創パートナー：NPO法人アスヘノキボウ



- アスヘノキボウは、女川町の社会課題解決を通じて、日本・世界の社会課題解決に貢献することをミッションとする団体です。日本全体で人口が減少し、経済が縮小する社会で、私たちが直面する社会問題もより深刻化し複雑になっています。
- 日本の地方はそれらの課題を先取りしている社会課題先進地です。私たちはその課題を異なるセクター（企業・団体）と連携することで、Collective Impact を生み出し、新しい地域のあり方を実現することで、日本・世界の未来に貢献します。
- “アスヘノキボウ”の由来
  - 2011年3月11日の東日本大震災発生後、女川町は町民が復興連絡協議会という民間の組織を立ち上げ、女川町の復興のビジョンをつくり、町の未来を描いてきました。被災によって家族や親戚、友人を亡くし、悲しみの中においても、町の未来を語るときの表情は明るく前を向いていました。私たちはそんな明日の未来に繋がる希望をつくる団体でありたいという想いから、「アスヘノキボウ（明日への希望）」と名付けました。

# ECO2026 企画概要

## ■ 企画

- 株式会社ヒューマンバリュー/NPO法人アスヘノキボウ

## ■ プログラムの目的

- 企業のマネジメント層が、日常から一歩踏み出し、自らの思考の枠を再構築する
- 女川の「再生・共創」の実践知に触れ、組織変革の可能性とリアリティを体感する
- 地域と企業、個人と組織、未来と現在が交わる“共創の場”を形成する
- 個々の体験を対話や振り返りを通して集合知に昇華させ、自組織での継続や広がりにつなげる

## ■ 募集対象

- 組織で変革の推進を担当している方、変革推進にあたっての期待や課題を感じている方
  - 例) 中間～上位マネジメント層、組織開発・人材開発部門、次世代のリーダー候補

## ■ 募集人数

- 12人～16名 ※同じ組織から立場や役割の違う複数人が参加することも、継続や広がりなどの効果を高めます

## ■ プログラム参加費用

- 45万円+税@1人

## ■ 女川での合宿について

- 合宿実施は5月17日（日）～5月20日（水）の3泊4日を予定しています
- 合宿の企画・窓口はヒューマンバリュー、催行は一般社団法人女川町観光協会が担当します
- 女川での宿泊費は宿泊施設（ホテル エルファロを予定）よりご請求します(1泊あたり約9000円/朝食付き・個室)
- 滞在中の夕食および初日・最終日の昼食にかかる費用は、プログラム参加費用に含まれます
- ご自宅と仙台駅の間で発生する交通費は各自での負担となります

## 担当チーム



### 代表取締役副社長／長曾 崇（ナガソ タカシ）

上智大学法学部卒業後、東京銀行（現三菱UFJ銀行）に入行。その後、ソニー株式会社、人材開発系ベンチャー企業を経て2006年にヒューマンバリューに入社し、現在に至る。

大手企業からベンチャー企業に至るまで、不確実な時代を生きるために、組織学習のプロセスコンサルテーションやファシリテーションを通じて、個人の内なる力を解放し、集合的な知性が創発するようなマネジメント・イノベーションを支援するプロジェクトに主に携わる。

クライアントが真に創り出したいアウトカム（結果・成果）や実現したい状態を踏まえ、直面する複雑性の高い問題を構造的に捉え、レバレッジを押しえながら、解決に向けた継続的な支援を行っている。

主な出版物は、『時代遅れの人事評価制度を刷新する～そのパフォーマンス・マネジメントは価値を生み出していますか』（共訳）、『GROW THE PIE～パーパスと利益の二項対立を超えて、持続可能な経済を実現する』（共訳）



### 研究員 保坂 光子（ホサカ ミツコ）

早稲田大学第一文学部総合人文学科社会学専修を卒業。人材派遣会社を経てヒューマンバリューに入社。

人材開発や組織開発の支援に関連する様々なテーマを通して人や組織、社会に関わりながら、「多様な存在が共に生きる中で生み出される変化や成長、それらを相互作用から育む場やプロセス」についてのリサーチや実践を重ねている。

最近の取り組みテーマは、人材開発や制度運用を軸とした企業文化醸成、人や組織の変化や成長を支えるプロセス・ガーデニングの実践探求、アジャイルな組織文化を生み出すプロセスの実践研究、個人・企業・地域社会に三方良しの価値を生み出す脱境界の体験やワークショップ推進など、社会全体に価値が広がる取り組みを志向している。